

粒状・灌注処理殺虫剤使用時のポイント

令和4年3月

J A全農ちば 営農支援部

粒剤・灌注処理殺虫剤は、薬剤の特性と防除目的とする害虫の種類をよく理解していないと無駄な薬剤を使用することになってしまいます。ここでは、特性の違いを大きく2つのタイプに分類します。

- 吸収移行型：土壌に処理した薬剤が作物の根から吸われて、地上部に移行し、地上部（葉）に寄生するアブラムシ類、コナジラミ類などの害虫を対象とする薬剤。
- 接触型：土壌中に生息しているか、あるいは土壌中に侵入してくるコガネムシ幼虫、ネキリムシ、キスジノミハムシ幼虫などの害虫に対して、接触やガス効果で効く薬剤。

【吸収移行型】

スタークル粒剤（顆粒水溶剤）・ジェイエース粒剤・プリロッソ粒剤・ベリマークSCなど

使用のポイント

- ①植穴などに薬剤を処理し、作物の生育初期により多くの薬剤を根から吸わせること。（※肥料などと一緒に土壌深く混和してしまうと効果が低くなります。）
- ②土壌が乾燥していると薬剤が溶けず、作物に吸収される量が少なくなり、効果が低下します。
- ③灌注処理する殺虫剤（スタークル、ベリマークなど）も同様に薬剤を植物の根から吸わせるため、十分な薬量を丁寧に灌注します。また、土壌が乾燥状態では吸収されにくくなり効果が低下します。

【接 触 型】

フォース粒剤・カルホス微粒剤F・ネマトリンエース粒剤など

使用のポイント

- ①土壌と均一に混和することが大切です。特に堆肥施用時では、堆肥中にコガネムシ幼虫が生息している場合が多いので、接触型の粒剤の処理が必要となる場合があります。
- ②ソルゴーなどの緑肥を作付けした後にもネキリムシやタエバネ等の土壌害虫の発生が多くなります。

主な粒状・灌注処理殺虫剤（園芸）の分類

分類	害虫 代表的な 薬剤	地 上 部 害 虫				地 下 部 害 虫				
		ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	コ ナ ガ	ネ キ リ ム シ	コ ガ ネ ム シ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ハ リ ガ ネ ム シ	タ ネ バ エ
吸収移行型	ネオニコチノイド系：スタークル・ベストガードなど	○	○	△	△	×	○	△	△	○
	有機リン系：ジェイエース粒剤	△	△	△	△	△	×	△	×	○
	ジアミド系：プリロッソ・ベリマークなど	○	○	△	※	○	×	△	×	△
接触型	フォース粒剤	×	×	×	×	○	○	○	○	○
	カルホス微粒剤F	×	×	×	×	○	○	○	○	○

注）薬剤の効果は目安です。また、実際の使用にあたっては各薬剤の最新の登録内容を確認して下さい。

※コナガはジアミド系殺虫剤抵抗が発達しつつあるので、地域の状況を確認する。